

集検喀痰細胞診を契機に発見された非肺扁平
上皮癌症例について

— 16年間の成績より —

○ 佐藤丈晴¹⁾、室井祥江¹⁾、神尾淳子¹⁾、
柴田眞一¹⁾、石田卓^{1,2,3)}、鈴木仁¹⁾

公益財団法人福島県保健衛生協会¹⁾、公立大
学法人福島県立医科大学呼吸器内科学講座
²⁾、同附属病院臨床腫瘍センター³⁾

【はじめに】 肺がん集団検診における喀痰
細胞診は、肺門部の早期扁平上皮癌の発見
を目的としているが、それ以外の癌も発見
される。今回は、肺扁平上皮癌を除いた癌
や上気道由来の癌、転移性肺癌等について
報告する。

【対象】 平成7～22年度までの16年
間に、住民検診における喀痰細胞診の受診者

総数は延べ 135,142 人であり、うち 189 例（10 万対比 143）の癌が発見された。これら癌症例から原発性肺癌としての扁平上皮癌 116 例と組織型不明 13 例を除いた 60 例を対象とした。

【原発性肺扁平上皮癌以外の癌】 1) 腺癌：扁平上皮癌に次いで多く、30 例が発見された。症例は全て男性で、平均年齢 71 歳（49～85 歳）、平均喫煙指数 906（200～1880）、発生部位は肺門型 5 例、肺末梢型 17 例、調査不能 8 例であった。進行期別では I 期が 12 例、II 期以上が 11 例、期別不明 7 例であった。胸部 X 線検査では検出されにくい早期癌や肺門部の症例が多かった。細胞所見としては、細胞質がライトグリーン色の小集塊が多く、立体的で腺腔様に配列していた。核は類円形で偏在し、1～数個の核小体を認め、腺癌の特徴的所見を呈していた。2) 小細胞癌：9 例発見され、全

症例男性、発生部位は肺門型 5 例、肺末梢型 1 例、調査不能 3 例であった。細胞所見は、腫瘍性背景の中、細胞質がライトグリーン色を呈し、N/C 比が高い小型細胞が集塊かつ散在性に多数見られた。3) その他：大細胞癌 2 例、腺扁平上皮癌 3 例が発見された。大細胞癌は稀な症例であるが、ライトグリーン色で大型不整形の細胞質を有し、核小体が目立つ所見から組織推定は可能であった。

【上気道由来の癌】 喉頭癌 11 例と中咽頭癌 2 例の計 13 例が発見され、全症例男性で、平均年齢 73 歳（64～83 歳）、平均喫煙指数 988（640～1530）であった。細胞所見は、細胞質がオレンジ色やイエロー色で光輝性を有する細胞が多い肺門部の早期肺扁平上皮癌に比し、咽喉頭癌は、光輝性のないオレンジ好性細胞が多かった。咽喉頭領域の精査でみつかった症例では、早期に

レーザーや放射線治療が施行された。

【転移性肺癌とその他の癌】直腸癌・胃癌からの転移性肺癌がそれぞれ1例あった。直腸癌の症例は女性で喫煙指数440、胃癌の症例は男性で喫煙指数1120であった。また、食道癌が1例あり、気管支鏡検査、耳鼻咽喉科領域の検査では異常を見出せず、上部消化管内視鏡検査により食道癌と診断された。

【まとめ】喀痰細胞診は、早期の肺扁平上皮癌発見に有用な検査であると同時に、腺癌や小細胞癌など扁平上皮癌以外の癌や上気道由来の癌も発見できる有意義な検査法の一つである。